

原点に立ち返り、現場から再デビュー！

内部討議資料

戸田ゆき子の ニューズレター



2007.11.14. No.2

発行 戸田ゆき子とともに市政を考える会
〒284-0001 四街道市大日160-27
E-mail yukiko7toda@yahoo.co.jp

TEL & FAX 043-421-3541
郵便振替 00140-0-484033

『ひとりひとりを大切に!!』



私がこの4年間、市民として

活動してきたこと(福祉・子育て)

戸田ゆき子



* ヘルパーとして高齢者・障害者の暮らしのお手伝いをしています。

* 視覚障害者の支援として移動支援のためのガイドヘルプ・「市議会だより」の音訳・文字を大きくした拡大教科書の制作に関わっています。

* 放課後の子どもの居場所「まじやりんこ」の設立に関わり、「さばおとさん」として子どもたちを見守っています。

* 市内の小学校および学童ルームで子どもたちにお話・絵本の読み聞かせをしています。

* 「みんなで人権を考えるつどい」実行委員長として企画運営に携わっています。

「ひと」がどうしても好きな戸田さん

戸田ゆき子とともに市政を考える会
國生 美南子



最初に思い浮かぶ戸田さん像は、その懐の深さです。新たな人や事柄に遭遇したとき、入り口で拒絶する姿を見たことがありません。まずじっくり聴いて、受け止め、その人や事柄を理解しようとし、ご自分がどう関わられるかを慎重に判断します。風呂敷を広げて安請け合いをするのではなく、労をいとわずに問題に正面から向き合います。できない理由を探すのではなく、可能性の糸口を探そうとするのです。そして、いったん引き受けた事柄に対しては、それがかなり困難なものであっても、途中で投げ出さないし、愚痴らないのです。

どの人もよりよく幸せに

そのような姿勢、懐の深さは何処から生まれているのかなと、時々考えます。たぶん、戸田さんは「ひと」がどうしても好きなのです。人が好き

だから人を最大限大事にしようとする。どの人も、よりよく幸せに暮らしてほしいと心底思っている。理不尽な理由で辛く悲しい思いをしている人がいない社会にしたいと本気で願っているのです。

「現場から再デビュー」を応援しています

私は「たすけあいの会ふきのとう」という非営利活動団体を主宰していますが、戸田さんはそこでも活動しています。さまざまな人々と関わる活動を通して、戸田さんの懐はますます深くなっているように思います。この活動は「ひと」が好きでないとできないし、関われば一層人が好きになります。しかし活動を通してかわることのできる人は限られています。戸田さんのもっと多くの人々

が不幸でなくなる地域社会にしたいと、「原点に立ち返り、現場から再デビュー！」してくれそうです。わたしは、それをとても頼もしく感じて応援している一人です。

子ども自身が持つ力をも育める環境を

もうひとつ、どうしても触れたいのが、戸田さんの、子どもたちへのゆるぎない情熱です。子どもの人権を保障し、子どもたちをたっぷりの愛情で包める地域社会にしたいという情熱は並々ならぬものがあります。長い年月しっかりと勉強も積み重ねておられ、私もたくさん啓発されました。子ども社会に競争を持ち込むのではなく、じっくりゆっくり向き合っていく子ども自身が持つ力を育てていく環境を整えることこそ、大人である私たちの責任ではないかと戸田さんは静かに、しかし強い信念をもって語ります。



お願いします！
カンパとボランティアさん、大歓迎！

- ①「戸田ゆき子とともに市政を考える会」に入会しませんか。情報をお伝えします。会費1000円
- ②ホームミーティングを開いて下さい。
- ③友人・知人をご紹介下さい。
- ④ニューズレター・チラシの配布をお手伝い下さい。などなどたくさんあります。

事務所(421-3541)までご連絡を。

そして、市民のみなさんから聞いた声（福祉・子育て）

市民の方から、数多くの当たり前で、切実な声をいただいています。これらの課題を市民のみなさんと一緒に話し合い、よりよい形で実現させたいと思います。

自然が豊かで、子育て支援や福祉の充実したまちとの評判を維持し、さらに高めることは、子育て世代を四街道に呼び寄せる吸引力となると思います。

①介護・福祉・医療について

・訪問リハビリ制度を充実してほしい。



- ・グループホームがあつたら安心して暮るのに。
- ・自分が元気なうちは、自宅で介護をしたいのだけど、夜間のヘルパーさんの手配が大変。
- ・自己負担が高額です。いつまで続けられるのか心配。
- ・腰を痛めているヘルパーさんが多いと聞きました。ヘルパーさんの数も足りません。労働条件を改善してあげてください。
- ・福祉の情報が手に入りにくい。
- ・生命を守る医療体制の充実を。

②子育て・教育について

- ・「まじやりんこ」のような放課後、安心してすごせる場所が自分の地域にもあつたらなあ。
- ・子どもたちは、思いつきりボール遊びの出来る場所を探しています。
- ・いじめのない学校・少人数学級の実現を。

- ・先生が忙しすぎます。疲れていて気持ちにゆとりがありません。
- ・緊急時に対応できる病後児保育をしてほしい。
- ・危険な通学路がなかなか改良されません。
- ・街灯をもっと増やして。



2期8年の議員時代に

がんばったけど、そして、また、やります。

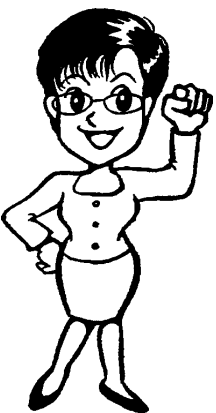
暮らしの声を市政に

反映させました

*年4回の議会ごとに欠かさず一般質問を行い、市政をチエックし、暮らしの視点を、市政に反映させました。（通算32回）

く実現した主なもの

教育委員の公募、学校に読書指導員の配置、学校評議員制度の導入、福祉シヨック「こんぺいとう」開設、精神障害者の作業所に補助金、ファミリーサポートセンターの設置、総合公園にユニバーサルデザインの遊具設置、カーブミラー・信号機・排水溝の整備、市民



参加の促進、非常勤職員の待遇改善など

議員として知り得た

情報の公開・説明責任に努めました

*「戸田ゆき子のニューズレター」を議会ごとに発行し、知り得た情報を公開して、市政や議会活動をわかりやすくお伝えしました。

「通算32回・手配り」
*議会終了後、議会報告会を実施しました。

12月9日(日)は住民投票に行きましょう！

「(仮)地域交流センター建設」に賛成か、反対か。市民の判断を！
市は「公正でわかりやすい情報の提供を!!」

この施設の建設を巡り、12月9日に住民投票が実施されることになりました。建設費

21億円、維持管理費年1億円という決して少額とはいえない税金を投入するのですから、市は、市民が判断しやすいよう公正でわかりやすい情報を出して欲しいと思います。

それにしても、ほとんどの市民がこのハコモノ建設を知りませんでした。なぜ、もっと早い時期に、市長と議員は市民の理解を得る努力をしな

ったのでしょうか。生活に密着したサービスが望む市民の声は切実なものです。多額の税金を支出するのですから、財政的などころからのさらなる検証が必要ですし、文化センターの利便促進をはかるため、公募の市民を交えた検討委員会を立ち上げるのが先決ではないかと考えるのは私だけではないと思います。

(期日前投票は12月3日～8日)

戸田ゆき子のあゆみ

- 1947年 船橋市に生まれる
- 65年 県立千葉商業高等学校卒業
伊藤忠商事(株)入社
- 79年 四街道市民となる
以降、3人の子育てをしながら、地域活動に参加
- 94年 市川房枝記念会政治
参画セミナー研修受
講開始
- 96年 四街道市議会議員
初当選・2期
- 2004年 地域活動、ボランティア活動、ヘルパーの資格をとり介護の仕事に従事
- 家族 夫と子ども3人

